

建築研究所ニュース



平成18年11月30日

火災リスク評価とリスクを利用した火災安全設計に関する 国際ワークショップの実施について

独立行政法人建築研究所は、京都大学防災研究所、東京理科大学 21 世紀 COE プログラムと共同で、「火災リスク評価とリスクを利用した火災安全設計に関する国際ワークショップ」を平成 18 年 11 月 3 日に京都で開催しました。

建築研究所では、平成 18 年度より重点的研究開発課題として「火災リスク評価に基づく性能的火災安全設計法の開発」に取り組んでおり、この研究プロジェクトの活動の一環として、ISO TC92 会議（11 月 4～9 日）が京都で開催されるのに合わせて、国際ワークショップを計画しました。世界 10 カ国以上の研究者・専門家など 60 名余りが参加し、13 人の講演者から各国の火災リスク評価手法、火災リスクを考慮した設計事例などについて発表が行われました。日本では 2000 年の建築基準法の改正において防火基準の性能規定が行われたように、建築基準の性能規定化が世界的に進められておりますが、次のステップとして火災リスクをベースにした基準や設計手法の開発が期待されています。今回のワークショップでは、火災リスクの評価や設計に利用する際に直面する様々な問題について、活発な議論が行われました。なかでも日本から行われた、火災リスク概念に基づく設計火災の決定に関する考察、火災リスクの観点から見た避難安全基準の解釈の発表については注目を集めました。最後に行われた全体の議論では、消防活動や消防設備の性能など、従来火災リスクの観点からあまり考慮されてこなかった問題について様々な意見交換が行われるなど、ワークショップは成功裏に終了しました。引き続き行われた ISO 会議においても、大変時期を得たワークショップであると好評でした。

本ワークショップにおける講演タイトル等の詳細については添付資料をご覧ください。

（内容の問合せ先）

独立行政法人 建築研究所
所属 防火研究グループ
氏名 萩原 一郎、仁井大策
電話 029-879-0692, 864-6629 直通）
E-mail hagiwara@kenken.go.jp,
nii@kenken.go.jp



講演に対する熱心な質疑

火災リスク評価とリスクを利用した火災安全設計に関する国際ワークショップ
International Workshop on fire risk assessment and risk-based fire safety design method

日時 2006 年 11 月 3 日 (金) 9 時 ~ 18 時
場所 ぱるるプラザ京都 4 階研修室 (京都市下京区)
主催 独立行政法人建築研究所
京都大学防災研究所
東京理科大学 21 世紀 COE

Opening remarks: 田中哮義 (京都大)

Session 1: 成瀬友宏 (建築研究所)

Overview of Standards for Fire Risk Assessment (火災リスク評価規格文書の概要)	John Hall (NFPA, USA)
Death risk by building fires in Japan and its usage (日本における建築火災による死亡リスクとその利用)	辻本 誠 (東京理科大)
Comparison of the ISO document with similar documents in use in Sweden or elsewhere in Europe (スウェーデンと欧州における ISO 文書と類似文書の利用比較)	Ulf Goransson (Lund Univ., Sweden)

Session 2: 同上

Overview of fire risk assessment projects by Arup in Americas, Australasia, East Asia and Europe regions (米国、東アジア、オセアニア及び欧州地域における ARUP の 火災リスク評価事例の概要)	Matthew Salisbury (Arup Fire) による代理発表 M.C. Hui (ARUP in Hong Kong, China)
Overview of the fire risk assessment example under development for ISO and comparison of the ISO document with documents in development in the U.K. (ISO 文書による火災リスク評価の適用例の概要と 英国における関連文書と ISO 文書との比較)	David Charters (BRE, UK)
The Use of Relative Risk-Based Assessment to Identify Cost-Effective Fire Safety Design Options for an Office Building (事務所ビルのコスト効率の高い火災安全対策を特定する ための相対的リスク評価の利用)	Noureddine Benichou (NRCC, Canada)
Fire risk assessment of the chip-pan fire hazard in a large London hostel (ロンドンの大規模宿泊施設における揚げ物火災危険に関する 火災リスク評価)	Gordon Cook (Fire consultant, UK)

Session 3: 原田和典 (京都大)

Selection of representative fire scenarios for undertaking fire risk assessment (火災リスク評価を行うための代表となる火災シナリオの選択)	Jim Mehaffey (Forintek, Canada)
A consideration on determination of design fire based on fire risk concept (火災リスク概念に基づく設計火災の決定に関する考察)	田中哮義 (京都大)
Building Fire Risk, Structural Fire Tests, and Performance-Based Codes (建築物の火災リスク、耐火試験法及び性能基準)	T. D. Lin (National Cheng Kung Univ., Taiwan)

Session 4: 同上

Performance Requirement for Building Fire Safety from the Viewpoint of Firefighting and Rescue Activity 関沢 愛 (東京大)

(消防活動及び救助活動の視点から見た建築物の火災安全に関する要求性能)

Fire risk assessment in historic buildings
(歴史的建造物に対する火災リスク評価)

Kyriakos Papaioannou
(Aristotle Univ. of
Thessaloniki, Greece)

Interpretation of means of escape provisions from fire risk point of view

萩原一郎 (建築研究所)

(火災リスクの観点から見た避難安全基準の解釈)

General discussion: 辻本 誠 (東京理科大)

(全体討論)